



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『わたしが与える水を飲む者は

決して渇かない』

聖書(ヨハネ福音書4章14節)

牧師 河合裕志

イエスは南部のユダヤより北部のガリラヤに向うことになった。それは一時ユダヤ当局の追及を逃れるため。とぼとぼと暑い中、北を目指す。やがてシカルというサマリアの町に入る。その町外れに族長ヤコブが掘ったとされる井戸があった。今でもこのヤコブの井戸があり観光客を集めている。

「イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである」。弟子達は食べ物を買いに町に行った。ここで興味深いのは「イエスは旅に疲れて」という記述。イエスも人間なんだ、とあらためて思う。人間は旅に疲れる、大いに疲れる。肉体的に、精神的に。だから休息が必要。水分、栄養、睡眠、語り、気分転換…こうしたことを繰り返しながら人間は旅を続けて行く。働き詰め、頑張り過ぎはいけない。燃え尽きかねない。

イエスは神の子だけれど一方で正真正銘の一個の人間。長旅には疲れた。井戸端で身を休めていた。そこにサマリアの女が水をくみに来る。水くみは女の仕事だけれど普通は夕方とか朝早く涼しい時間帯に行くもの。それが正午とは何かイワクがありそう。人に会いたくない、見られたくない。今付き合っている男は6人目ということで

身持ちの悪い女と見られていたためか。

女は井戸に近づくほどに見知らぬ男がいるなど気付いた。いやだなと思ったけど水をくまないわけには行かない。恐る恐る近付くと男は声をかけて来た。『水を飲ませてください』。これにはギクリ、さてどうしたものか。女は言う。「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」。これはもっともな言い分。ユダヤ人とサマリア人は交際がなく反目し合っていた。女の返答にイエスはニッコリ。このあと二、三のやりとりがあってイエスは言う。『この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る』。

女に向ってずい分と難解なことを言ったもの。女はわかった？ 全然。私達だってわかる筈はない。イエスは何を言おうとしている。あの冷たい水の話ではなさそう。それはイエスの言葉とかイエスの霊(聖霊)と言ったらよいか。どちらも不滅なもの。永遠なるもの。これをわが内にとり入れたら渇かない者になるかも。常に希望に生かされる者になるかも。

## 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時